

子どもにやさしい空間

ガイドブック 第2部（実践編）



©日本ユニセフ協会／K.Shindo



公益財団法人 日本ユニセフ協会



独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 災害時こころの情報支援センター

このガイドブックをお読みいただく前に

災害や事故などの緊急事態では、家庭・学校・遊び場・地域などの子どもたちを取り巻く生活環境や生活習慣は大きく変化します。それに伴って、子どもの心身の健康や発達・成長にも様々な影響があると考えられています。

緊急時に、いち早く、子どもたちにとって安心できる安全な空間づくりを行うことは、子どもたちの保護とこころの健康にとって大切なことであると、国際的に提唱されています¹。

このガイドブックでは、緊急時に避難した先で『子どもにやさしい空間²（Child Friendly Space）』をつくるために理解しておくことや心がけておくこと（第 1 部：理念編）や、そのために必要な準備や実際の手続き（第 2 部：実践編）を説明しています。

第 1 部（理念編）をぜひお読みいただいてから、実際の手続きについて話し合いをはじめましょう！

¹ 国連の機関であるユニセフ（UNICEF）は、2010 年に『A Practical Guide for Developing Child Friendly Spaces』を発行しています。

² 「子どもにやさしい空間」とはユニセフによる名称です。様々な団体が違った名称で同じような取り組みをしています。地域や場所によって、みなさんの好きな名前を付けることもとてもよい方法です。

このガイドブック第2部（実践編）の使い方

まずはじめに、目次を見ていただくと、「子どもにやさしい空間」ができるまでの全体像がお分かりいただけるでしょう。

本書では、「子どもにやさしい空間」を実施するステップについて順をおって示しています。

この順序通りでなくても、必要に応じて、必要な箇所を参考にされてください。

巻末には、コピーして自由にお使い頂ける付録があります。付録のはじめに、各ステップにおけるチェック項目がありますので、そちらもお使いください。

付録を参考に、それぞれの「子どもにやさしい空間」に対応したものを作成して頂いてもかまいません。

「子どもにやさしい空間」とは

ガイドブックの第1部（理念編）にある、「子どもにやさしい空間の目的」と「6つの大切なこと」をもう一度、確認しましょう。

目的

「子どもにやさしい空間」とは、災害や事故などの緊急事態において、避難した先で子どもたちが安心して、そして安全に過ごすことができる場を指します。

そこでは、子どもたちの遊びや学習、またこころやからだの健康を支えるための、多様な活動や情報が提供されます。

【6つの大切なこと】

「子どもにやさしい空間」は、

1. 子どもにとって安心・安全な環境であること
2. 子どもを受け入れ、支える環境であること
3. 地域の特性や文化、体制や対応力に基づいていること
4. みんなが参加し、共に作りあげていくこと
5. さまざまな領域の活動や支援を提供すること
6. 誰にでも開かれていること

実践編 もくじ

実践ステップ1：アセスメントを行う

ページ

1. 被災した子どもたちの状況を知る
 - 1) 地域で活動している公的機関や民間支援団体を知る
 - 2) 地域の子どもや家族の生活リズムを理解する
 - 3) 地域で利用できる資源を知る
2. 「子どもにやさしい空間」のニーズを把握する
3. 収集した情報を検証し、パートナー団体と連携する

実践ステップ2：活動内容を計画する

ページ

1. 活動のあり方を決定する
2. 予算の運用計画を立てる
3. 活動内容を計画する
 - 1) 活動内容を決定するときのポイント
 - 2) 発達段階に応じて気をつけること
(乳幼児・小学生・中高生／青少年)
 - 3) 活動スケジュールの検討
 - ★1週間の活動スケジュールの例
 - 4) 必要な備品の準備
 - ★備品リスト
 - 6歳以下の子ども用
 - 6歳以上の子ども用（ゲーム・おもちゃ）
 - 6歳以上の子ども用（図画工作文具）

★は参考資料です。

実践ステップ3：空間をデザインする

ページ

1. 場所を決める
2. 空間の構造をデザインする
 - ★空間デザインの例
3. 必要な設備を整える
 - ★設備のチェックリスト
 - ★備品や必需品のリスト
4. 地域への移行の準備をする

実践ステップ4：人材を確保し、運営する

ページ

1. 地域の人や組織への参加を呼びかける
2. 適切な（安全な）おとなの協力を得る
 - ★子どもと接するときの原則
3. スタッフ・ボランティアの責任を明確にする
 - ★人材管理のチェックリスト（責任者用）
4. スタッフ・ボランティアの研修を行う
 - ★研修項目の例

実践ステップ5：モニタリング評価を行う

ページ

1. モニタリング評価のための枠組みをつくる
2. モニタリング評価を実施する
 - 1) 地域の参加者と一緒に行う
 - 2) 評価の“ものさし”をつくる
 - 3) 実際に評価する

付録

★は参考資料です

実践ステップ 1 アセスメントを行う

目的

被災した子どもたちの状況を知り、子どもたちや地域の人々の「子どもにやさしい空間」に対するニーズを把握すること。その上で、収集した情報を検証し、連携できそうなパートナーを見つけること。

【アセスメントの手順】

1. 被災した子どもたちの状況を知る

- ・地域で活動する行政や団体の活動把握
- ・地域の子どもの家族の生活リズムを理解
- ・地域で利用できる資源（場所・物品・人材等）の把握



2. 「子どもにやさしい空間」のニーズを把握する

- ・子どもたちや地域の人々のニーズを把握する
- ・支援が届いていない地域や人々を把握する



3. 情報を検証し、パートナー団体と連携する

- ・収集した情報を検証する
- ・連携できそうな個人や団体を見つける

1. 被災した子どもたちの状況を知る

最も困難な立場にある子どもたちの状況を知るために、必要な情報を集めましょう。

まずは被災地域の全体的な現状を確認してから、緊急時の子どもたち、特に、最も困難な立場にある子どもたちの状況を調査するようにしましょう。

調査にあたっては、以下のことを留意しましょう。

- 調査チームが他分野のメンバーで成り立っており、被災地域の子どもたちやおとなにも参加してもらっていること
- 子どもたちが積極的に意見を述べられる環境にあること
- 個別面談やグループディスカッションなど様々な手法を用いること

状況調査を行う上で、特に以下の3つのことを把握しましょう。

1) 地域で活動している公的機関や民間支援団体を知る。

2) 地域の子どもや家族の生活リズムを理解する。

3) 地域で利用できる資源を知る。

1) 地域で活動している公的機関や民間支援団体を知る

地域で行われている支援事業などを把握しましょう。活動している公的機関（行政、児童館、公民館など）や民間団体（NGO、NPO など）ごとに、事業内容、支援地域、支援を受ける子どもやおとなの数（特に最も困難な立場にある子どもたちを支援するものか）、事業の進捗状況、持続可能性などをまとめた一覧表を作るとわかりやすいでしょう。

例)

支援団体名	事業内容	対象地域とその人口	支援を受ける子ども／おとなの数	事業の進捗状況・持続可能性
〇〇〇〇〇	乳幼児と母親の居場所作り	〇市△仮設 〇名	子ども 〇名 おとな 〇名	〇年〇月〇日 開始。〇月まで実施予定。

「子どもにやさしい空間」のような包括的な支援を行うためには、多分野で活動する団体や個人の協力を得ることが大切です。

他の公的機関や民間団体の支援状況を調べる中で、あなたの団体が実施する「子どもにやさしい空間」に関わってくれそうな協力者（公的機関・民間団体・個人）を増やしましょう。協力してくださる方々の適性やこれまでの同様の事業での経験なども把握しておくといでしょう。

2) 地域の子どもや家族の生活リズムを理解する

「子どもにやさしい空間」の最も重要な役割の一つは、被災した子どもや家族が、日常生活を取り戻す支援をすることです。そのために、地域の子どもたちや家族の普段の生活リズムや日常生活の様子について理解した上で事業の計画を立てて行くことが大切です。

避難所や地域を訪問して、被災した子どもや家族との話し合いの場をもち、地域の産業・文化・慣習や子育てのあり方などについても知るようにしましょう。

3) 地域で利用できる資源を知る

支援する地域で利用できる以下のような資源についてリストにして把握しておくといよいでしょう。

場所や物品	人材	情報媒体
・学校 ・建物 ・倉庫 ・おもちゃ ・ゲーム ・・・など	・地域リーダー ・ボランティア ・専門家 ・・・など	・新聞 ・ラジオ ・テレビ ・掲示板 ・・・など

より詳細な情報、地域に密着した情報を集めるためには、様々な分野、異なる組織の人たちに調査に参加してもらうことがよいでしょう。

2. 「子どもにやさしい空間」のニーズ把握

子どもや地域の人々のニーズを知り、支援の届いていない人々に支援を届ける

被災の状況が大きく、困難な立場にあるにもかかわらず、地域で支援を得にくい子どもやおとなにも、広く支援を行うことが大切です。

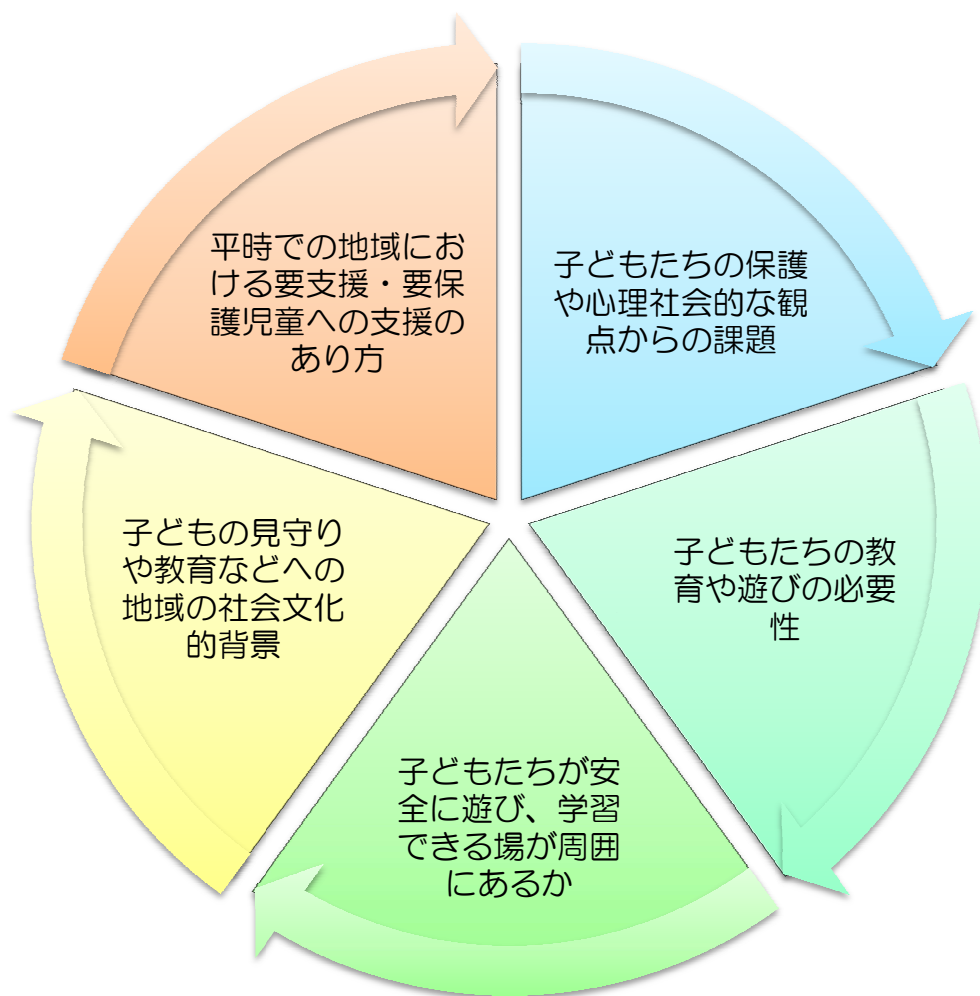
そこで、そういった人々や子どもがどこにいるのか、子どもの年齢や性別、障がいの有無などの情報を集め、図や表にしておくといでしょう。

地域を訪問して、おとなや子どもと話しながら、支援が届いていないところがあるか、必要な支援はどんなものかを考えていくことも有効です。

(イラスト)

避難所のひとを訪問して、情報を収集しているようなイラスト

「子どもにやさしい空間」への子どもたちや地域の方々のニーズを把握するために、特に下記の情報を収集しましょう。



その上で、「子どもにやさしい空間」の設置場所、事業の実施に関する適切性について把握しましょう。

3. 収集した情報を検証し、パートナー団体と連携する

子どもたちや地域の人々にも参加してもらい、話し合ひましょう。

調査で集めた様々な情報を基に、関係者や地域の方々との話し合いの場をもちましょう。

- 集めた情報の質・量について検討する
- 話し合いには子どもや地域の方々にも参加してもらう
- 話し合いを通して、「子どもにやさしい空間」を設置するかどうかを決める

円滑な話し合いのために、「子どもにやさしい空間」に馴染みのある人にファシリテーター（話し合いの進行役）として入ってもらうとよいでしょう。

中長期的な視点で、「子どもにやさしい空間」が、地域の緊急支援体制に盛り込まれるように、初期の段階から公的機関から他の支援団体に「子どもにやさしい空間」の必要性や概念についても伝えていきましょう。

すでに「子どもにやさしい空間」や同様の支援を行っている団体などと積極的に情報交換をしながら、連携できそうな団体や地域の方々とのよい関係を作っていきましょう。

実践ステップ2 活動内容を計画する

目的

緊急時において迅速かつ効果的に「子どもにやさしい空間」を実施するための活動内容を計画すること

1. 活動のあり方を決定する

子どもにやさしい空間でどのような活動を行うのか形態を決めましょう。

自分たちの現状や子どもたち、地域のニーズにあった活動のあり方を決めることが重要です。

子どもにやさしい空間の活動のあり方の例

A

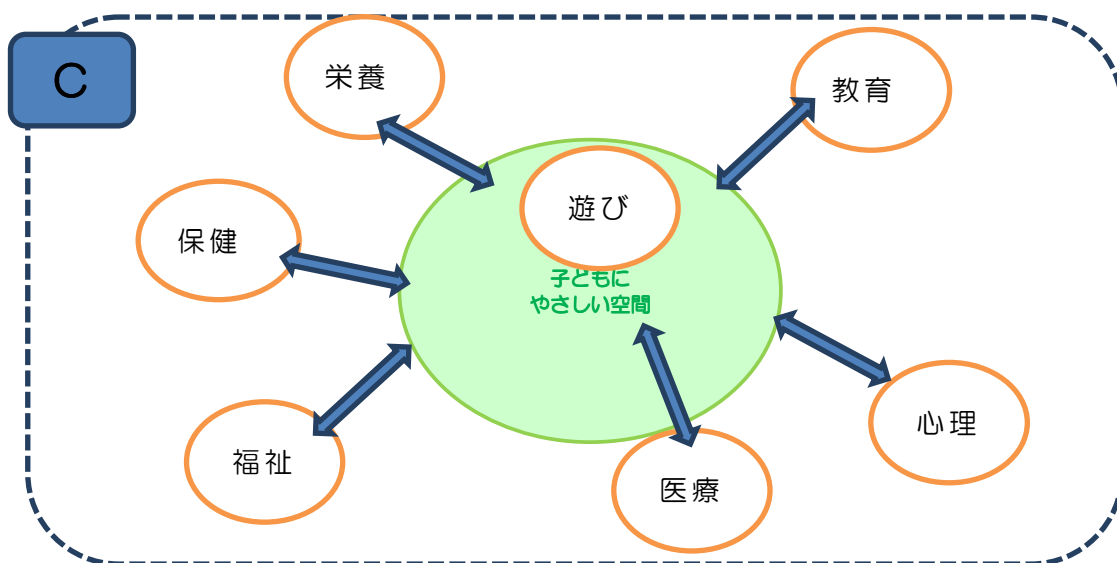
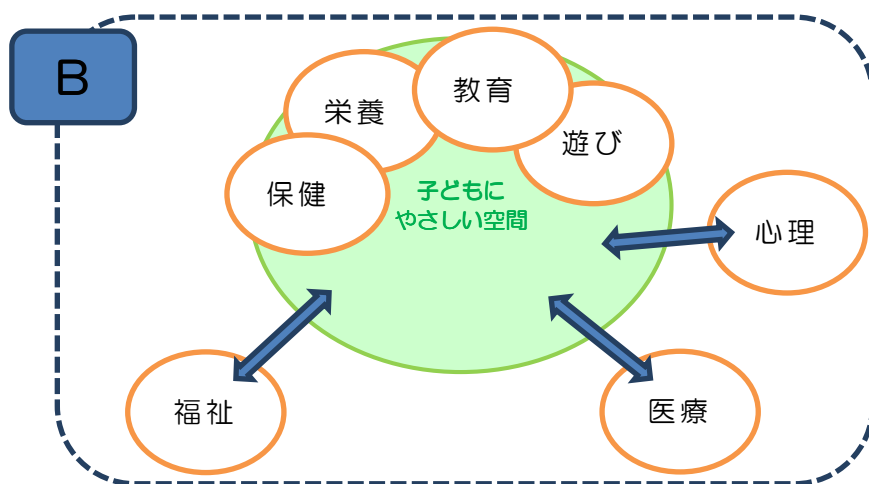
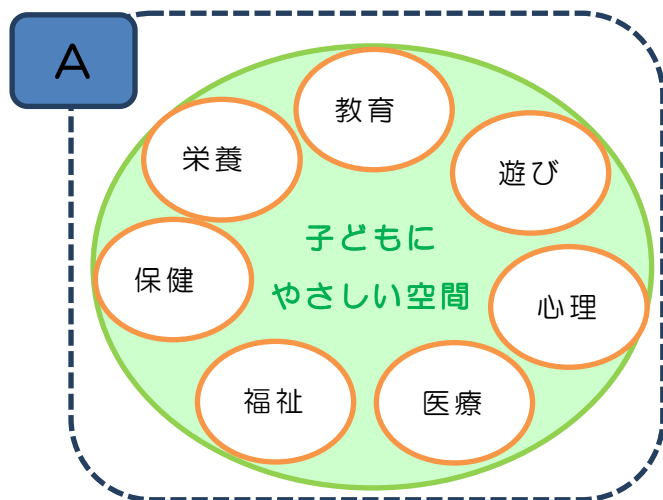
「子どもにやさしい空間」内において様々な専門の活動を提供する

B

「子どもにやさしい空間」内においても、ある程度多様な活動を提供しながら、必要に応じてより専門的な支援に結びつける

C

「子どもにやさしい空間」内では最小限の活動内容で、そこで必要な支援ニーズを把握し、より専門的な支援へつなげる



2. 予算の運用計画を立てる

活動に必要な予算を立てましょう

① 活動に使える資金を確認する



② 活動全体の予算運用計画を立てる



③ 子どもの人数と照らし合わせ、一人あたりに対する活動コストを明確にする



④ 活動が始まったら、収支の記録をつける



⑤ できるだけ、地域で利用できる資源（場所・物品・人材など）を使うこと



⑥ 「子どもにやさしい空間」を引き継ぐときのために、あらかじめ、引き継ぎ後の財政計画も検討しておく

3. 活動内容を計画する

子どもに合った適切な活動内容を決めましょう

1) 活動内容を決定するときのポイント

- ✧ 子どもの発達を促進するような遊びや学びの機会を提供する
- ✧ 子どもたちを支えるための、多様な活動（下表参照）を提供する
- ✧ 地域のニーズと対応力に応じた活動を行うために、子どもたちや地域のおとなたちと一緒に活動内容を計画する
- ✧ 子どもにやさしい空間は全ての子どものためのものであるため、性別や年齢、その他の理由による差別が行われず、誰もが自由に遊べる空間にする
- ✧ 様々な障がいを持つ子どもも、必ず尊重され、地域に積極的に参加する活動を体験できるようにする
- ✧ 文化に合った活動を用意するよう、スタッフが文化に対して敏感でいる

①発達促進的な遊び

- ・自由遊び（図画工作、ごっこ遊び等）
- ・構造的な遊び（音楽、劇、スポーツ、ゲーム等）

②教育

- ・自習
- ・学習支援

③健康と栄養

- ・健康・発達面のスクリーニング
- ・栄養・衛生教育
- ・応急救護

④心理社会的サポート

- ・専門家による支援活動
- ・ピア・サポート
- ・親のカウンセリング
- ・プレイセラピー

⑤地域の活動

- ・世代を超えた交流
- ・家族が参加できる活動
- ・子ども会

⑥ライフスキル

- ・問題解決能力や自発性の向上
- ・暴力・虐待への対応

2) 発達段階に応じて気をつけること



*乳幼児（生後すぐから就学前まで）

- ・乳幼児は、保護者と共に活動に参加するため、保護者が安心して子どもと過ごせる居心地のいい場所作りが必要です。
- ・幼児には、刺激を与えるような遊びがより必要となってきます。備品の表を参考に、おもちゃを用意したり、親や他の大人、年長の子どものと様々な遊びができるように工夫します。



*小学生（6歳から12歳）

- ・ごっこ遊び・図画工作・歌、踊り、物語作りなど、子ども同士がかかわりあって遊べるようにします。
- ・遊びは子どもが自分の気持ちを表現したり伝えるのにも役立ちます。
- ・子どもにとってなじみ深い活動を行うことで、普段の日常の感覚を持たせることが必要です。
- ・家族や地域のおとなの手伝いや、活動に参加させることもできます。



*中高生／青少年（12歳から18歳）

- ・活動を計画する際、この年代の子どもたち自身が活動を自分で組み立てることに参加するのが重要です。
- ・スポーツや遊びなど、小さな子どもたちの様々な活動をサポートしたり指導したりする能力を発揮させることもできます。
- ・学校カリキュラム以外の自習・学習支援も必要です。
- ・ライフスキル*の獲得を目的としたワークショップの開催などもできます。
- ・家族の中で重要な責任を負っていることもあり、「子どもにやさしい空間」の活動への参加が難しい場合があるので、参加できるよう工夫が必要なこともあります。

*ライフスキル：

困難な状況の中で直面する様々な危険を知るとともに、正確な情報に基づいて、自らの健康を維持し、必要な選択や決定ができるスキル；例えば、衛生に対する知識、暴力から身を守る方法など

子どもや家族の生活リズムを確認する



活動時間帯やその対象となる年齢を決める



担当するスタッフを割り振る

【1 週間の活動スケジュールの例】

「子どもにやさしい空間」 1 週間の予定

A グループ：5 歳－10 歳

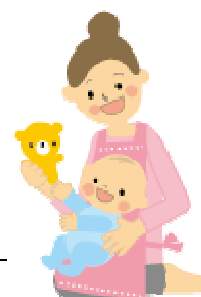
B グループ：11 歳－18 歳

時間	曜日毎の活動のながれ						
		月	火	水	木	金	土日
9:00 9:30	受付						
9:30	年齢別の活動						
10:30	A	スポーツ	工作	スポーツ	グループ 遊び	学習	自由遊び
	B	スポーツ	学習	工作	グループ 遊び	学習	自由遊び
10:30 11:45	自由遊び／自習						
11:45 12:00	片付け、帰りの準備						
12:30 13:30	スタッフ振り返り／翌日の準備						
17:00	遊び場の自由解放 保護者相談会（参加自由）						

※C グループ：0 歳～5 歳 親子が安心して過ごせる別室を用意しています

4) 必要な備品の準備

* 6 歳以下の子どもに役立つおもちゃや備品（20 名分）



必要なもの	説明	数
ホワイトボード	大きなサイズ、専用ペンと消すもの	1
敷物（マット）	ポリエステルなど汚れが取れやすいもの。 柔らかい、明るい色のもの	4
おもちゃ	柔らかい素材や、プラスチックで音が出るもの（がらがらや鈴入りの人形など）	10
サイズや色の異なる輪っかのついたスタンド	乳幼児のためのもの	5
積み木	幼児が使えるよう、大きなもの	5 セット
クッションボール	柔らかく小さな、多色のもの（幼児用）お 手玉でも良い	10
パペット人形やぬいぐるみ	手にはめて動かせる人形他、種類の違うもの	10
スカーフなどの布	様々な用途に子どもが使います	5
絵本		10

* 6 歳以上の子どもの役に立つゲーム／おもちゃ（80名分）

必要なもの	説明	数
バスケットボール	大人サイズ、軽いもの	2
サッカーボール	大人サイズ、軽いもの	2
空気入れ	小さな鉄の針で、ボールの空気を入れるもの	1
はちまき ゼッケン	子どものサイズのもの、色が複数	11 枚 2 セット
笛	ゲームの審判用	2
縄跳び	ひも／ロープでも良い	10
ボードゲーム		5
トランプ		10
UNO		5
パズル	難易度の異なるもの	10
CD カセットプレイヤー		1
チョーク	白と他の色	10
ぬいぐるみや人形	様々な種類のもの	20
ミニカー		20
積み木		5 セット



* 6 歳以上の子どもに役立つ図画工作文具（80名分）

必要なもの	説明	数
筆箱	シンプルなもの	50
鉛筆	良質のもの	250
消しゴム	実用的なもの	50
鉛筆削り	小さくシンプルで良質のもの	50
色鉛筆	12色セット	50
お絵描き帳／スケッチブック	白い紙で100枚入り、14-28センチのもの	100
テープ		25
スティックのり		25
粘土	多色のもの	100
はさみ	紙を簡単に切れる、子どもが使いやすいもの	25
水彩絵の具	12色セット	25セット
水彩絵の具絵筆	3種類のサイズ	25セット
クレヨン	64色のクレヨン	2セット
折り紙	50-100枚入り	20セット

注：備品はいくつかの箱に分類し、分類の名前と中身を書いておく



実践ステップ3 空間をデザインする

目的

「子どもにやさしい空間」が、子どものニーズにあった効果的な空間デザインとなるように、子どもや地域の人々と一緒に取り組むこと

1. 場所を決める

「子どもにやさしい空間」に適切な場所を選びましょう

場所の選び方のポイント

- アクセスがよく、基本的なサービスが得られる場所

「子どもにやさしい空間」の設置にあたって、子どもや家族の日々の活動に即した、アクセスのいい適切な場所を選びましょう。また基本的なサービス（交通機関、電気、水、衛生面等）が満たされる場所であることも確認しましょう。

- できれば地域に本来ある場所

地域が持ち合わせている空間を利用し、それに沿った形に適應させることが大切です。地域の集会所や体育館、学校施設等を使うことができるか確認しましょう。

2. 空間の構造をデザインする

場所の大きさ、子ども達のニーズや活動のタイプに基づいて、空間の構造をデザインしましょう。

必要なものを書き出し、絵に書いてみましょう

空間（ハード面）

- ・空間の広さ
- ・レイアウト
- ・設備

備品・道具（ソフト面）

- ・必要な物品
- ・入手方法
- ・配置

時間

- ・営業時間
- ・時間割
- ・期間

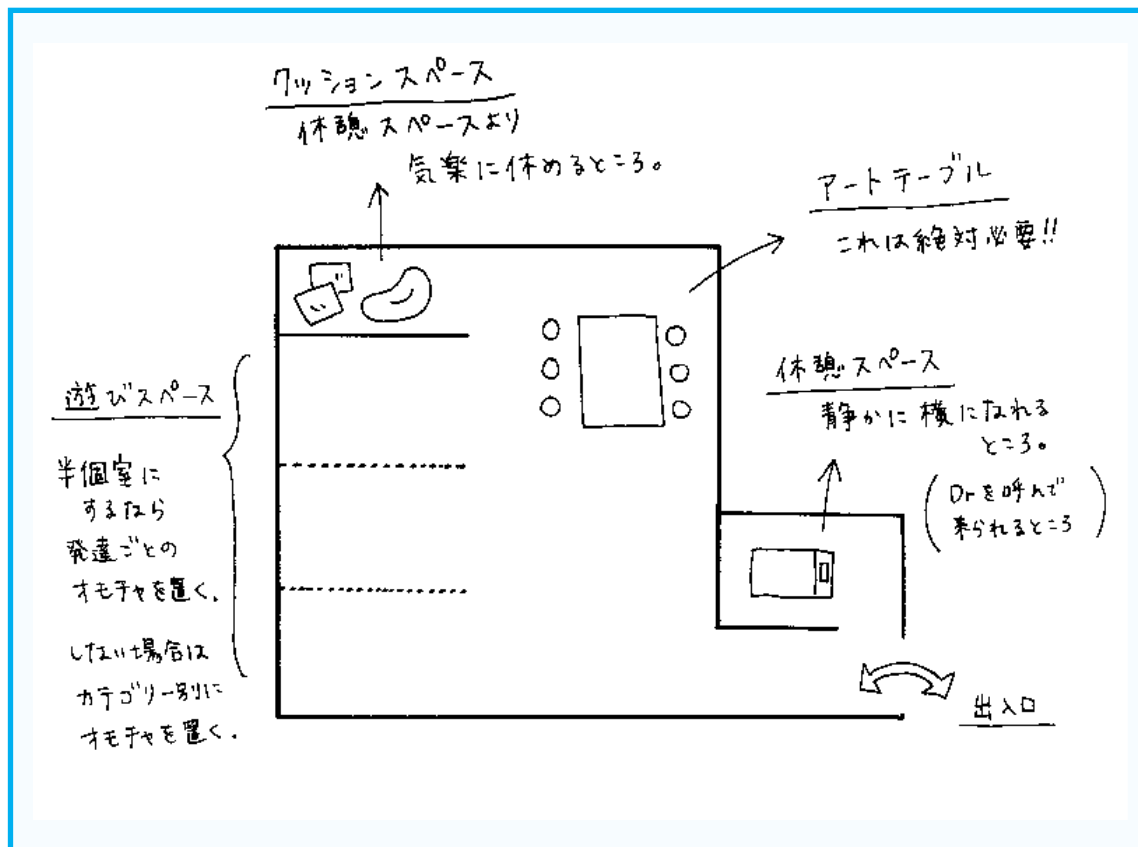
人

- ・参加者
- ・協力者
- ・スタッフ
- ・責任者
- ・役割分担

活動内容・設備

- ・「子どもにやさしい空間」以外の目的で使われる場合
- ・他の機能を持つ場合

【構造デザインの例】



3. 必要な設備を整える

レクリエーション 設備

子ども達の身体的、社会的、知的な発達を促すような活動を提供するレクリエーション設備が必要です

- ・ **屋内外の設備**
場所の広さと人手に応じて、屋内や屋外に遊びの空間を整えましょう。
- ・ **備品・遊び道具**
子どもの年齢、人数、特別なニーズなどに応じて、十分な備品と遊び道具を用意しましょう。

医療設備

子どもにとって安全な環境を提供するために、医療設備は欠かせません。

- ・ **応急処置**
軽い怪我や不調の場合は、スタッフがケアできるように、救急箱を必ず常備し、薬や医療品は子どもの手が届かないところに保管しましょう。
- ・ **個別の対応**
特別な支援を必要とする子どものための補助や備品はあるか、それらが入手可能かどうか確認しましょう。

衛生管理・トイレ

子ども達の健康管理、空間内での感染などを防ぐためにも、衛生管理の行き届いた設備を準備しましょう

- ・ **使いやすさへの配慮**
参加する子どもたちが使うトイレ設備は、年齢・障がい等を考慮し、適切な場所に設置される必要があります。
- ・ **衛生管理**
ごみや汚物の処理を適切に行いましょう。内部感染を防ぐため、定期的な清掃は不可欠です。手洗いの設備を必ず設け、手洗いの習慣を子どもの毎日の活動の中に組み込みましょう。
- ・ **プライバシーへの配慮**
男女別のトイレを設置すること、また外部の者が入れない守られた設備であることも重要です。

★設備のチェックリスト

項目	済	備考
「子どもにやさしい空間」は四面を囲まれたスペースで、決まった出入り口がある。	☐	
トイレと洗面所に近くにある。もし設備が離れている場合には、子どもが使用する際におとなが付き添う、あるいは監督することができる。	☐	
飲料水がある。	☐	
安全で危険のない環境、また清潔で整頓された環境である。	☐	
スタッフ、保護者、その他の訪問者のためのスペースは、子どもが使うスペースと別にある。	☐	
軽い怪我や病気のケアをする場所がある、またはそのような場所が近くにある	☐	
汚物の処理を適切にする設備がある（ゴミ箱など）。	☐	
障がいをもつ子どもの受け入れを想定した設備である。	☐	
屋内外に子どもの活動のための空間が十分にある。	☐	
屋外の遊び場では、乳幼児のための場所は別になっている。	☐	
屋内の遊び場には、適切な空調設備がある。	☐	
屋外には屋根などのついた陰の空間がある。	☐	
備品には先のとがった角や端がない。	☐	

★備品や必需品のリスト

		済	備考
衛生用品	ごみ箱、ごみ袋	☐	
	トイレトーパー	☐	
	手の消毒液	☐	
	消毒用おてふき (ウェットティッシュ等)	☐	
	石鹸	☐	
	スポンジ	☐	
	モップ、バケツ	☐	
	ハンドタオル	☐	
安心・安全のため の備品	救急箱	☐	
	懐中電灯と電池	☐	
	「子どもが遊んでいます」という 看板やポスター	☐	
	消火器	☐	
	ゴム手袋	☐	
構造作り に役立つ 物品	クリップボード	☐	
	参加者名簿・保護者の同意書 (※名札や子どもの顔写真をとっておく方法もあります)	☐	
	名札 (子ども用、ボランティアスタッフ用)	☐	
	油性マーカー・ペン	☐	
	はさみ・のり・テープ・ホッチキス	☐	
	子どもの活動記録用紙	☐	
	引き継ぎ報告用紙	☐	

☆付録Ⅱ.保護者の同意書

☆付録Ⅲ.参加者名簿、連絡先 参照

4. 地域への移行の準備をする

子どもにやさしい空間の終結・地域への移行についてあらかじめ考えておきましょう

- 初期の段階から話し合っておく

プロジェクトの終結、あるいは長期的な方策について、地域や公的機関と可能な限り計画の初期の段階から話し合っておくことが勧められます。

- 地域で持続可能な活動へと移行し、フォローアップする

終結する際には、子どもたちのニーズがその後も継続的に満たされることを確認しましょう。内部での有効的なフォローアップ、研修によって、地域が持ち合わせている対応力を強化し、継続的な活動にすることも出来るでしょう。

実践ステップ4 人材を確保し、運営する

目的

「子どもにやさしい空間」を円滑に運営するために、適切な人材を確保・育成すること

1. 地域の人々に参加を呼びかける

「子どもにやさしい空間」設置の計画を広く知らせ、関心を持ってもらい、参加を呼びかけましょう

通常、「子どもにやさしい空間」の運営には公的機関、民間団体、個人など、さまざまなパートナーがたずさわります。

教師や、子どもにかかわる仕事をしてきた人が中心的な役割を果たす例が多いですが、緊急時には、それ以外にも「子どもにやさしい空間」のために、新たに人材を募集し育成することが必要となる場合が多くあります。

【地域と連携して「子どもにやさしい空間」を運営する利点】

- ・ 共同体の既存のつながりやネットワークを広く活かせる
- ・ 現場での豊富な実践経験に基づいた活動ができる
- ・ 地域特有の知識や技術を持っている
- ・ 現地の文化や状況に合うよう工夫した活動内容作りができる
- ・ 参加型の計画と運営ができる
- ・ 長期的にかかわることのできる人材が増え、持続性が高い
- ・ 費用対効果が高い

【地域の人々に参加を呼びかけ、活動を始めるときに考慮すること】

- ・ 子ども、女性、男性、先生など、「子どもにやさしい空間」と関連する様々な人々に声をかける。
- ・ 社会的弱者の権利が守られ、参加しやすいように心がける。
- ・ 「子どもにやさしい空間」を計画するとき、実現可能な小さな目標から始め、段階的に目標を高めていくようにする。
- ・ 参加する人々の自発的な意思を尊重する。

2. 適切な（安全な）おとなの協力を得る

「子どもにやさしい空間」の運営にあたって、スタッフやボランティアを募集したり、研修などによって育てましょう。

【スタッフやボランティアを募集するときに考慮すること】

- ✧ 本人のやる気や意志
- ✧ スタッフのジェンダー・バランス（男性あるいは女性だけに偏らない）
- ✧ 子どもとかかわる仕事経験の有無とその内容
- ✧ 子ども参加に対する理解と支持
- ✧ 「子どもにやさしい空間」のために時間を割くことができる（他の仕事を担いすぎしていない）
- ✧ 地元と外部の両方の人材がいる場合、それぞれの人数のバランス
- ✧ 学歴・職歴だけでなく、人格の適切さや子どもとのコミュニケーション・スキルの有無
- ✧ 子どもを見守るおとなと子どもの人数の割合
- ✧ 報酬を支払う場合、現地の報酬基準や考え方などを考慮し「子どもにやさしい空間」が持続可能な体制を取る

「子どもにやさしい空間」で働くスタッフやボランティアは、子どもと接するときの原則や行動規範を理解し、遵守する必要があります。

スタッフやボランティア全員に、行動規範や規則が明記された書式に署名してもらうことが勧められます。

☆付録Ⅳ.ボランティア登録用紙

☆付録Ⅴ.スタッフ・ボランティアの行動規範の例 参照

子どもと接するときの原則

- 1 すべての子どもに対して、差別なく、平等に、尊厳を持って接しましょう。
- 2 子どもとのかかわりや活動は、つねに「子どもの最善の利益」を考慮して行いましょう。
- 3 文化的に受け入れられる方法で、子どもの権利や保護の課題についての啓発を行いながらも、子どもの保護者が子どもに対して持つ責任、権利や義務を尊重しましょう。
- 4 身体的・性的・心理的虐待やネグレクト（育児放棄）など、保護が必要な子どものケースに対応することができる訓練を受けたスタッフを定め、こうしたケースを発見した際に取りべき具体的手段をスタッフ・ボランティア全員が知っているようにしましょう。
- 5 スタッフやボランティアは「子どもにやさしい空間」内での子どもとの接し方についての知識と技術の研修を受けましょう。

☆付録Ⅵ.子どもとの基本的な関わり方 参照

3. スタッフ・ボランティアの責任を明確にする

役割や責任について明確にしましょう

管理運営者

財政管理、スタッフの採用と評価、仕事の役割分担(道具の管理など)、活動やサービスの質の評価、具体的活動の計画づくりと実施、スタッフに対する研修や心理的ケアなどの責任を負います。

活動責任者

地域の経験者と連携し、「子どもにやさしい空間」の遊びや学習活動を促進する役割を担います。子どもキャンプの運営経験者、保護者、子育て支援者、年長者、子どもや若者などと連携します。

ボランティア

「子どもにやさしい空間」には先生、保護者、若者、地域の信頼される大人などがボランティアとして関わる人が多いでしょう。ボランティアの採用の際も、専任スタッフを採用するときと同じように子どもの安全を考慮した基準を設けることが大切です。

※ 可能な限り心理社会的ケアの専門スタッフとの連携し、活動に定期的に参加をしてもらい、個別の心理的支援が必要な子どもを特定してもらうことが望ましいでしょう。

【人材管理のチェックリスト（責任者用）】

	チェック	備考
男女の人数のバランスが適切か	☐	
おとな対子どもの割合が十分か	☐	
スタッフやボランティアは子どもの名前を把握しているか	☐	
スタッフやボランティアは子どもの家族状況を把握しているか	☐	
すべてのスタッフとボランティアが行動規範に署名しているか	☐	
スタッフが働く時間と報酬額が明記されているか	☐	
スタッフやボランティアの名簿や記録が整理されているか	☐	
スタッフの身元を確認したうえで採用されているか	☐	
「子どもにやさしい空間」に常時、専任のおとなのスタッフがいる体制が取れているか	☐	
スタッフの評価を定期的に行い、研修ニーズを把握し対応しているか	☐	

4. スタッフ・ボランティアの研修を行う

スタッフ・ボランティアの育成について計画していきましょう

「子どもにやさしい空間」のスタッフやボランティアとして参加する人たちに、事前に、あるいは現場で、継続的に研修を行うことが望ましいでしょう。

研修の際には、スタッフやボランティアの経験や知識、必要性に応じて研修内容を決めると良いでしょう。

研修項目の例

- ・ 災害が子どもや家族にもたらす影響
- ・ 支援活動を通して子どもとかわる方法
- ・ 親とのかかわり方
- ・ 子どもの権利や保護に関する知識
- ・ 喪失とグリーフ（悲嘆）に寄り添う方法
- ・ 子どもと接するときの行動規範
- ・ 子どものさまざまな反応や行動への対応の仕方
- ・ 専門的な助けが必要な子どもたちの特定の仕方
- ・ 専門的な助けが必要な子どもたちを専門家につなげる方法
- ・ 活動報告と問題が起こったときの報告の仕方
- ・ 遊びを促す方法や子どもの遊びへの寄り添い方
- ・ 子ども参加型の学習方法
- ・ 保健・栄養・衛生に関する知識と伝え方

実践ステップ5 モニタリング評価を行う

目的

「子どもにやさしい空間」の運営状況や、子どもや家族、地域の参加の状況を、継続的にモニタリング（経過を観察・記録すること）と、評価を行うこと。

「子どもにやさしい空間」の基準に照らし合わせて、目的の達成状況や支援効果について判断し、どのような場所でも一定の質が保障され、適切なサポートが行えるように調整するための情報を得ること。

1. モニタリング評価のための枠組みをつくる

誰が、いつ、何についてモニタリング評価するのか、あらかじめ計画を立てておきましょう

「子どもにやさしい空間」を利用している子どもたちの様子を観察し、設備や運営の状況を把握するモニタリング評価の枠組みは、あらかじめ決められていることが望ましいでしょう。

これらの枠組みをつくっておくことで、スタッフ間、あるいは他の機関との情報共有の不足や、支援が有効に実施されないといった問題を回避することができます。

【モニタリング評価の枠組み】

- ・ 時期
- ・ 頻度

いつ



- ・ 運営スタッフ（責任者）
- ・ 参加者や地域の人
- ・ 第三者（他領域のアドバイザー）や協力機関

だれが



- ・ 参加している子どもと保護者
- ・ スタッフやボランティア
- ・ 地域の人

だれを
対象に



- ・ 環境整備について
- ・ 活動のねらいや内容について
- ・ 支援の適切さについて

何を



- ・ 直接の行動観察
- ・ 報告書
- ・ アンケートやインタビュー

どうやって



- ・ 評価の際に、安全であること
- ・ 個人情報保護されること
- ・ 評価によって不利益がないこと

気をつけること



2. モニタリング評価を実施する

モニタリング評価の方法と実施するときの留意点について、確認しておきましょう。

1)

地域の参加者と一緒に行く

- ・「子どもにやさしい空間」の改善のためのモニタリング評価に、参加している子どもや保護者、また地域の人も積極的に参加できるように促し、その結果を広く共有することが大切です。そうすることによって、既存の活動を改善したり、現実的な問題解決に役立つでしょう。
- ・また、何らかの理由で参加が制限されている人からは、よりアクセスしやすい方法について貴重な情報が得られるかもしれません。

2)

評価の”ものさし”をつくる

- ・被災地や避難所の状況に応じて設置された「子どもにやさしい空間」の意図や活動の目的に応じて、モニタリング評価の基準となるような“ものさし”が決められていることが望ましいでしょう。
- ・この“ものさし”に基づいて、初期・中期・長期の情報を収集すると、目標の達成状況や、支援の効果や影響を把握することができるようになります。

3)

実際に評価する

- ・ 活動内容や活動状況を適切に調整するために、災害の状況や避難所環境が急速に変化するに応じて、月に1回程度のモニタリング評価が望ましいと言えます。
- ・ そして、その結果をもとに、活動内容の修正や活動のステップを修正するかどうかを検討しましょう。

スタッフが
実施するとき

- ・ 月に1回程度、担当のスタッフが評価用紙に記入する。
- ・ 参加者の行動観察とともに、直接参加者から話を聞いてもよい。
- ・ 日々の記録や評価結果をもとに、関係者が集まって話し合いを行う

参加者が実施
するとき

- ・ 避難所にいる子ども、参加している子どもを対象とする（人数が多い場合は、性別や年齢帯を考慮して無作為に数名選出してもよい）。
- ・ 本人への聞き取りや保護者にアンケートを配布して、回答してもらう。

第三者が実施
するとき

- ・ 地域の人や、行政や他団体、あるいはアドバイザーに依頼し、定期的に評価を行う。
- ・ スタッフや参加者が記入した評価用紙の集計をもとに、意見や提案をもらってもよい。

☆付録Ⅶ.モニタリング評価用紙（スタッフ用）

☆付録Ⅷ.モニタリング評価用紙（保護者用アンケート）参照

付録

そのほか、役に立つ資料を集めてみました

- I. ステップ・チェックリスト
- II. 保護者の同意書
- III. 参加者名簿、連絡先
- IV. ボランティア登録用紙
- V. スタッフ・ボランティアの行動規範の例
- VI. 子どもとの基本的な関わり方
- VII. モニタリング評価用紙（スタッフ用）
- VIII. モニタリング評価用紙（保護者用アンケート）

付録はコピーして、自由にお使いください。

付録を参考に、それぞれの「子どもにやさしい空間」に対応したものを作成して頂いてもかまいません。

付録Ⅰ. 実践ステップ・チェックリスト

アセスメントを行う

- ・地域で誰が何をしているか（公的機関、民間団体）についてまとめた一覧表がありますか？
- ・支援対象地域の家族や子どもの生活リズムについて理解していますか？
- ・支援対象地域ので利用できる資源（場所、物品、人材など）を集めたリストを作っていますか？
- ・地域や行政に行動計画を共有していますか？
- ・十分に予算を確保していますか？
- ・「子どもにやさしい空間」について、訪問や巡回による事業実施の計画がありますか？
- ・結果がどのようにモニタリングされ評価されるのか、理解していますか？

活動内容を計画する

- ・現状や子ども達のニーズに応じた活動のあり方が選択されていますか？
- ・予算の運用計画を立てていますか？
- ・様々な領域の活動が計画に入っていますか？
- ・アセスメントで必要とされた活動が入っていますか？
- ・アセスメントに応じて活動スケジュールを立てていますか？
- ・性別や年齢（乳幼児・小学生・中高生）に偏りなく活動が用意されていますか？
- ・障がいや特別なニーズのある子どもが参加できる工夫はなされていますか？
- ・文化にあった活動になっていますか？
- ・活動に必要な備品が年齢／性別の偏りなく用意されていますか？

空間をデザインする

- ・アクセスのよい適切な場所が選ばれていますか？
- ・場所の大きさや子どもの数、活動の種類に応じた構造をデザインしていますか？
- ・実施プランを作成していますか？
- ・子ども達や地域の活動への継続的な関わりを促していますか？
- ・状況やニーズに応じた備品や道具を選んでいますか？
- ・最低限必要な基準を振り返り、基準が満たされているか、また保護者や関係者がそれらにアクセスできるか確認していますか？
- ・地域と協働し、子どもにやさしい空間のその後の移行計画について話し合い、取り組んでいますか？

人材を確保し、運営する

- ・「子どもにやさしい空間」の設置計画を地域や行政に広く知らせ、参加を呼びかけていますか？
- ・長期に関わることのできる地域の人材がいますか？
- ・実現可能な小さな目標設定から始めていますか？
- ・明確な募集基準に基づいた「安全なおとな」を、スタッフやボランティアとして採用していますか？
- ・スタッフやボランティアは「子どもと接するときの原則」を理解し、行動規範に署名をしていますか？
- ・スタッフやボランティアの勤務体制、役割分担、責任は明確にされていますか？
- ・問題が起きた時や、専門的な支援が必要な場合の連絡方法は明確にされていますか？
- ・スタッフやボランティアの知識・経験・必要性に応じて研修が計画・実施されていますか？

モニタリング評価を行う

- ・モニタリング評価の枠組み（頻度・方法など）をあらかじめ決めていますか？
- ・モニタリング評価を地域の参加者と一緒に実施していますか？
- ・評価の“ものさし”は、活動の目標や内容を適切に評価できるものになっていますか？
- ・評価の“ものさし”は、被災した場所や避難所の状況に対応していますか？
- ・評価の“ものさし”は、災害後から初期・中期・長期の経過情報が得られるようになっていますか？
- ・実際に、モニタリング評価が行われていますか？
- ・被害状況や治安、利便性など、モニタリング評価を制限する要因はありませんか？
- ・モニタリング評価の結果について振り返り、活動内容の修正や改善のために適切に生かされていますか？

付録 II.保護者同意書

『子どもにやさしい空間*で遊ぼう！』

（*個別名称がある場合には個別名称を記入）

参加されるみなさまへ

私たち〇〇〇（団体名）は、今回の災害を受けて、子どもたちが少しでも遊んだりくつろいだりできる場所である「子どもにやさしい空間*」を避難所や地域で運営しています。子どもたちにとっては、どんな環境にあっても、「遊び」の場は大切です。「遊び」は子どもたちにとって重要な成長を支えます。避難所などでなかなか思い切り声を出したり、運動をできない状況が続いていると思います。「子どもにやさしい空間*」では、ボランティアスタッフが子どもたちを見守りながら遊びの機会を提供しています。

私たちの思いに賛同し、お子様が「子どもにやさしい空間*」で遊ぶことに同意していただける保護者の方は、下記の参加申込書（同意書）に必要事項を記入の上、スタッフにお渡してください。個人情報とは、厳重に管理し、「子どもにやさしい空間*」の運営のみに使用し、他には使用いたしません。

（団体名）



切り取り

平成 年 月 日

参加申込書（同意書）

〇〇〇〇の運営する「子どもにやさしい空間*」の趣旨に賛同し、私のこどもが「子どもにやさしい空間*」で遊ぶことに同意します。

（保護者氏名）

（緊急連絡先（電話・携帯）

（こども氏名）

（年齢）（幼稚園・保育園・学校名）

（男・女） 歳

（住所または避難所などの詳細）

（お子さんの気になること、日頃気を付けていることがあれば、お書き下さい）

付録Ⅲ.参加者名簿と連絡先

こんにちは！ここは _____ ですよ。いっしょにあそびましょ。

[illegible]

付録Ⅳ.ボランティア登録用紙

ボランティア登録用紙

1:名前（ふりがな）

2 :住所

〒

3:電話番号

4:メールアドレス

5:性別

6: 希望活動曜日・時間

7:資格（運転免許証、保育士など子どものケアに関する資格、ボランティア経験など）

8:その他

付録Ⅴ.スタッフ・ボランティアの行動規範の例

子どもにやさしい空間ボランティア行動規範

＊この行動規範における子どもの定義は「児童福祉法」「子どもの権利条約」に則り、0歳～満18歳に達するまで（18歳未満）の男女とする。

活動場所・組織（避難所等）のルール等あれば、それを、あらかじめ理解し、単独行動はできるだけ避け、組織的に活動する。

子どもにやさしい空間の活動時以外でも、活動場所・組織（避難所等）においては、被災した方々の気持ちや、プライバシーを十分配慮し、マナーのある行動と言葉づかいで保護者やその他の方々に接する。

すべての子どもに平等に差別なく接する。年齢、性別、心身の健康状態や、他の状況等に関わらず、子どもみんなに平等に接する。それぞれのニーズに合して対応することは必要であるが、みんなが平等で大切な存在であるということを常に認識して活動する。

子どもと閉鎖的な空間で二人きりになることは避ける。子どもが個別に話をしたいといった場合は、開いた空間で他の子どもや人々が目に入りながらも、声は他の人に聞こえない状態等で会話出来るようにする。

子どものプライバシーを守る。子どもの写真等は無断にとらない。子どもと話したこと、遊びを通じて共有された出来事等は基本的に、子どものプライバシーを守るため、匿名で、子どもにやさしい空間の活動者の間での話し合い以外では共有しない。

子どもを活動場所（避難所等）より連れ出したり、自宅に連れてかえるという行為はしない。

unite for
children

unicef 

子どもへの身体的虐待、性的虐待、心理的虐待をおこなわない。
いかなる場合も、体罰もしくは、しつけという名目で子どもの体に
接触しない。（虐待についての定義は ANNEX を参照）

子どもが危険な状態にあると思われる場合（例：虐待を受けてい
たり、保護が必要だと認識される場合）は、早急に_____
（責任者連絡先・携帯番号等）に報告する。

子どもの話や遊びを見守る中で見守る側の燃え尽きを防ぐために
必ず活動者の間で話す時間をきめて気持ちを分かち合ったり無理
せずに疲れたときは活動を休むこと。

もし、上記の行動規範が守られなかった場合は、子どもにやさし
い空間で働くことを禁止するとともに、法に触れる場合は、それ
に沿った対処がとられる。

【提出用】

子どもにやさしい空間行動規範承諾書

私は上記の行動規範を読み、理解し、守ることを承諾します。

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

署名 _____

所属 _____

unite for
children

unicef 

付録 VI. 子どもとの基本的な関わり方

子どもとの基本的なかかわり方

子どもが安心感をとれりもどし、思いや気持ちを表現できるように「子どもにやさしい空間」では、次のような対応を心がけましよう。

- 1) 子どもに次に何があるかの見通しが持てるように、決められたスケジュールが子どもにわかるようにましよう。
- 2) 親や保護者から離れにくい場合は、無理に引き離さないようにましよう。
- 3) どんな活動や遊びをするかなど、できる範囲で子どもに選させたり決めさせたりして、自分がコントロールできている感覚を子どもに与えましよう。
- 4) 子どもが自分のペースで話をしたり、遊んだり、活動に参加できるように、無理に聞き出したり、参加させたりしないようにましよう。
- 5) 子どもが出来事について繰り返し話すときには、何度でも話に耳を傾け、受け止めてあげましよう。
- 6) 子どもが遊びの中で体験したことを表現したときは、子どもの行動を実況中継するように、子どもが身振りや表情、動きで表現したことを言葉にして伝えましよう。例：「ぴょんぴょん飛んでるね。」
- 7) 子どもがイライラしたり、乱暴なことをしたときは、子どもの気持ちをまず受け止めましよう。例：「怒りたい気持ちなんだね。」そのあとで、してはいけない行動は制限ましよう。 例：「お友達は叩かないよ。」
- 8) イライラした気持ちや攻撃的な気持ちを表現するために使えるものを用意ましよう。例：叩けるクッション、ビリビリ破るための新聞紙など。例：「このクッションなら叩いていいよ。」
- 9) 体験や気持ちを表現する子どもの話や遊びに寄り添うのが、おとなにとって心理的に困難に感じるときは、他の人の変わってもらなとして、無理に続けないようにましよう。おとなは休息や自分自身のケアを常にこころがけましよう

付録 VII.モニタリング評価用紙（スタッフ用）

（子どもにやさしい空間）

モニタリング評価用紙（スタッフ用）

■ 評価日： ____ 年 ____ 月 ____ 日（ ）

■ 評価者： _____ □ スタッフ □ ボランティア

■ 場所： _____ □ 屋内 □ 屋外

■ 運営： _____

■ 時間帯： 平日 _____ 土日祝 _____

■ 参加した延べ人数（ 月 日～ 月 日）

年齢	女の子	男の子	合 計	保護者
乳幼児				
小学生				
中学生				
高校生以上				
保護者				
地域住民				

■ スタッフの情報

役割	人数	改善点など
代表（責任者）		
スタッフ		
ボランティア		
その他		

■活動状況

①各年齢帯に応じた活動がありますか

☐ はい ☐ いいえ（改善点：_____）

②気になる子どもはいますか

☐ いいえ ☐ はい（病気・障がい・虐待・家族関係・その他_____）

③活動はすべての子どもが参加できるように工夫されていますか

☐ はい ☐ いいえ（改善点：_____）

④活動中のスタッフ・ボランティアの数や対応は適切ですか

☐ はい ☐ いいえ（改善点：_____）

⑤怪我や問題が起こったときの対応は適切ですか

☐ はい ☐ いいえ（改善点：_____）

⑥連携・協力する他の機関・団体がありますか

☐ はい ☐ いいえ（改善点：_____）

⑦その他：_____

■環境の状況（気になることや改善点があれば記入）

	有	改善点
設置場所	☐	
トイレ	☐	
衛生・掃除	☐	
安全	☐	
物品・用具	☐	
玩具など	☐	

その他：_____

■総合的な評価 ☐ 大変よい ☐ よい ☐ まあよい ☐ よくない

モニタリング評価用紙（保護者用アンケート）

■記入者： _____ □母 □父 □その他
()

	年 齢	性 別	就 園 ・ 就 学	利用の頻度・曜日・時間帯
1		男 ・ 女	有 ・ 無	
2		男 ・ 女	有 ・ 無	
3		男 ・ 女	有 ・ 無	
4		男 ・ 女	有 ・ 無	

■お子さまの最近の様子について気になることはありますか
()

■お子さまは、ここで、どのように過ごしていますか
(

■どのような活動に参加しましたか
(

■ _____に参加して、お子さまに変化はありましたか

☐ほとんどない ☐少しある ☐ややある ☐とてもある

☐「ある」と答えた方は具体的に

(

■子どもにやさしい空間の様子について教えてください

①以下の物や人材はありましたか

	有	どんなもの、改善点
子どもの年齢や性別にあったおもちゃやゲーム	☐	
子どもの年齢に合った学習用具	☐	
同じ年代ぐらいの他の子ども	☐	
保護者も参加できる活動	☐	
子どもの安全管理をするおとな	☐	
子どもの遊び相手や話し相手になってくれるおとな	☐	
保護者が相談できるスタッフ	☐	

②以下の項目について、どれくらい満足していますか（数字に○）

	満足 していない		普通	満足 している	
子どもにやさしい空間の設備	1	2	3	4	5
遊びや学習の活動について	1	2	3	4	5
子どもたちに対するスタッフやボランティアの対応	1	2	3	4	5
保護者に対するスタッフやボランティアの対応	1	2	3	4	5

■他に何かお気づきの点や、感想・改善点・要望を自由にどうぞ。

★ご協力ありがとうございました。記入後は（ ）まで。

「子どもにやさしい空間」に かかわる一員として

わたしたちは、「子どもにやさしい空間」にかかわる一員として、次のようなことを心がけます。

◇ 『子どもの最大の利益』を最優先し、子どもに害を与えません。

◇ あらゆる子どもを差別することなく、子どもの多様性（性別・年齢など）に応じた場やプログラムをつくることを心がけます。

- ◇ 一部の関係者や専門家だけでなく、保護者や地域の高齢者、若者や子どもなど、異なる立場の方からも積極的に意見を聞きます。
- ◇ 包括的な支援を提供するために、分野をこえた関係機関との連携を図ります。
- ◇ 「子どもにやさしい空間」が同じ地域で集中しないように、支援の届かない地域ができないように、子どもにかかわる他の支援機関と調整しながら活動します。
- ◇ 異なる立場や意見に対しては、非難ではなく、対話をするように心がけます。

「子どもにやさしい空間」に賛同してくださる先生方

レビューアー一覧 ※五十音順（敬称略・主な所属）

◇

◇

◇

◇

【監修】

金 吉晴

（独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
災害時こころの情報支援センター長

【編集スタッフ】

（公財）日本ユニセフ協会 東日本大震災緊急支援本部

小野 道子（子どもの保護アドバイザー）

本田 涼子（心理社会的ケアアドバイザー・臨床心理士）

湯野 貴子（心理社会的ケアアドバイザー・臨床心理士）

（独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

大滝 涼子（災害時こころの情報支援センター研究員）

森脇 愛子（児童・思春期精神保健研究部研究員・臨床発達心理士）

発行日： 2013 年 月 日 ©

発行者： （公財）日本ユニセフ協会

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

HP: <http://www.unicef.or.jp>

（独）国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

災害時こころの情報支援センター

〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

HP: <http://saigai-kokoro.ncnp.go.jp>

Mail: saigai_cfs@ncnp.go.jp

